

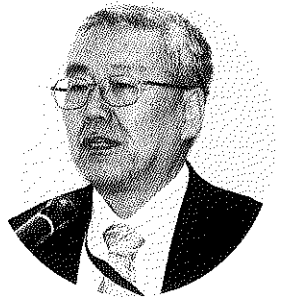
労働保険事務

おまかせ下さい

—社大森工場協会—
—労働保険事務組合—

社団法人 大森工場協会 会報

第69号
平成23年 8月 1日
発行 社大森工場協会
編集委員会
東京都大田区中央2-11-10
TEL 03 (3771) 4744
印刷 城南印刷工業株式会社
TEL 03 (3752) 3391



巻頭言

釜石市訪問雑記

(社)大森工場協会 会長
(株)昭和製作所代表取締役

舟久保利明

本年三月に発生した東日本大震災により、東北3県が甚大な被害を受けた。わが大森工場協会会員各位においても、直接的間接的に被害を受けられた方も多いと思いますが、世界の各地から支援の手が差し伸べられている中において、我々工業関係者にとって何ができるのかと検討した結果、大田区と同じように工業集積地である釜石市に対する援助をしようとの意見が大田工連理事会において決定され、会員各位からも多くの義捐金の賛同をいただきました。この紙面を借りて厚く御礼を申し上げます。

五月三十日、私以下関係者五名で現地を訪問して、釜石市長に直接皆様からの御奉仕をお渡しするとともに、がれきの残るすさまじい状況を確認して帰省しました。
以下、そのときの訪問雑記をお伝えし、報告とさせていただきますと思います。

前泊は遠野市で翌日朝一番に釜石に着いた。途中倒木で列車が十五分遅れたが、釜石市の職員が出迎えてくれた。市役所に向かう途中の通りは、メインストリートであるはずの生活の気配が感じられず瓦礫の山があちこちに積み上げられていた。市役所について、名刺交換を行い、市長と会見し、義捐金を手渡しした。

市長に「このお金は被災者向けではないですね」と聞かれ、「我々大田工連は中小企業の集まりで、東北の最も中小企業の多い地域と聞いている釜石市の同業者に役立てていただきたいと考え、直接お伺いしてお持ちした次第です」と答えた。
その後佐々次長以下、市の関係者と懇談した。(別掲のとおり)
釜石市の東側は全滅し、火災もあつたりして、全く復興の見通しが立たない。

地震当時議会開催中であつたが、昭和二十九年に建てられた市庁舎は高台にあり、全く被害を受けなかつた。

津波は内部まで入り込むと、その後逆流して渦巻状となって町全体をかきまわした。テレビで放映された二階建てのビルに乗つた漁船は、何度かの余震で危険な状態となり何とか撤去されたが、結局は解体されるということであつた。

雇用対策に関して、労働者は法律で用意された手当があるが、経営者には全くない。担保価値も下落し、国が対策を立てると、全く被害を受けていない業者も同じように補償金を請求するという便乗業者も現れると言ふ。

民宿に関しては、復興時期に入り宿泊人数が激増しかつ宿泊単価が上がり、地震特需を受けている数少ない業種の一つになっていると言ふ。

津波保険に入っている造船所は釜石では三社しかなく、そこを除いては倒産同様になっている。

釜石市の死者は約500人であるが、行方不明者は公称800人と言われているが、実際のところその2倍かもしれないと言ふ。今年行われる大田区の商い観光展やおたふエスタで海産物物産展への出店を提案したが、現在のところ製品が無いと言ふので、申し込みは受付けて、来年送らせていただくという案はどうかと提案した。

大田区産業振興協会の復興スキルを見てもらったが、関係者で相談して回答するということになった。機械もろとも喪失した工場のいくつかは、東京・大阪などの得意先の近辺で生産を続けていると言ふ。
釜石のものづくり中小企業は漁業関係が多いが、新造船に関しては殆ど地元業者では

価格の面で折り合わない。特に台湾・韓国勢が受注していくと言ふ。

- 〈釜石側〉
野田 武則 釜石市長
佐々 隆裕 釜石市産業振興部次長
小山田俊一 釜石市産業振興部商工労政課兼企業立地推進本部産業政策係長
小笠原順一 財団法人釜石・大槌産業育成センター事務局長

- 小山 博國 財団法人釜石・大槌産業育成センターコーディネーター
佐藤 一彦 株式会社釜石電機製作所代表取締役
小崎 利弘 釜石市自衛隊協力会
〈大田工連側〉
舟久保利明 社団法人大田工業連合会会長
近藤 忠雄 大田工学会代表(元大田区議)
浅野 和人 社団法人大田工業連合会事務局局長
小山田 隆 工和会事業協同組合事務局局長
金澤 健治 金澤鉄工所代表取締役



(社)大森工場協会は、平成二十三年度第六十六回定期総会を、去る五月二十三日午後六時三十分から大田文化の森第四集会所において開催した。議案の審議に先立って舟久保会長が挨拶に立ち、「このたびの東日本大震災の影響を受けて、我々の仲間殆どの仕事が減少状態になり、この状況が長引けば倒産する会社も続出することが予測される。この際あらゆる助成金等も活用して、何とかこの状態を乗り切るべくお互いに頑張りましょう。」と激励した。

今回の定期総会では、例年のとおり第一号議案平成二十二年年度決算関係書類の承認の件、第二号議案平成二十三年度事業計画・予算計画承認の件が上程され、それぞれ原案どおり承認されたほか、本年度が公益法人制度改革に基づく移行申請年度に当たするため、第三号議案として一般社団法人移行に伴う定款の変更案並びに公益目的支出計画案の承認についての議案が上程され、事務局長から定款案の内容並びに公益目的支出計画案の実施内容について細部にわたる説明がなされた。審議の結果、満場一致で承認され、いよいよ一般社団法人移行申請に向けての第一歩を踏み出した。これにより平成二十四年度からは一般社団法人大森工場協会と名称も変わり、引き継がれた社員並びに役員の下に新しい組織がスタートすることになる。

(社)大森工場協会 第66回 定期総会を開催

一般社団法人移行に向けて定款変更案・公益目的支出計画案を承認

■一般社団法人に移行したら何がかわるのか？

名称	・社団法人大森工場協会から、一般社団法人大森工場協会に変わる。
事業目的制限	・公益目的支出計画実施中は、その事業のために着実に支出をしなければならない。 ・公益目的支出計画の終了後は、法人の創意工夫により柔軟な事業展開が可能になり、自主的な運営ができる。
支出制限	・事業に対する収入・費用の制限もなくなる。 ・財産の保持に関する制限もなくなる。
遊休財産制限	・制限なし。
監督等	・原則として監督はなくなり、自主的運営となる。ただし、公益目的支出計画実施中は、毎年行政庁に対して実施報告が必要。
必要的設置機関	・社員総会と理事以外の設置は任意であるが、当協会では社員総会・理事・理事会・監事の4機関を置く。
税制上の措置	・収益事業のみ課税。一部税制優遇あり。 ・利子・配当には課税。

経営サロン(YMネット)

(有) 磐梯工業 専務取締役
渡辺 美仁

二〇一一年六月八日にYMネットと称しまして、YMクラブのネットワーク強化を目的に、会員間の情報交換会と五月末に大田区の代表として舟久保会長が岩手県釜石市に視察に行かれた際のお話をさせていただきます。

舟久保会長から、釜石市に義捐金を寄付した際のお話や、復旧や復興がまだまだ進んでいない状況など貴重なお話を伺うことができました。

YMクラブとしては、会員の皆様のご協力のもと、義捐金についても多額の義捐金を寄付することができましたことを、この場をお借りしましてお礼申し上げます。

会員間の情報交換については、三月十一日の東日本大震災の影響について各社お話をいただきました。

客先が計画停電により生産数量が落ちた納入先のラインを止められないので、配送遅れ等を考慮して前倒し納入をしていった。

逆に客先から更なる信用を得られることができた。

福島に材料購入先があり、材料が入りづらい。

復旧復興の特需があり忙しくなった

地震の影響で部品に傷が入ってしまった

ガソリンが入れられなくて仕事に影響がでた

鉄系の鋳物の仕事が忙しくなっている

売上げの高い得意先が福島にあり、原発の影響で仕事が減ってしまった

四月の売上は今までで最悪であった

四月は横ばいだったが、五月から売上が半減した

半導体の仕事が八割減で、部品も入らない、六月

八月はさらに厳しくなりそう

震災後は仕事がばったりだったが、最近では良くなっている

避難訓練をしていたため初動対応ができて混乱もなく良かった

三月は客先がライン停止していたが、四月末も生産がもどっている

建機向けのエンジンが最高潮

客先対応で七、八、九月は土日出勤となる、木金で設備メンテをしたい

千葉県船橋の客先は液化化により建物壊れた

千葉の工場が二日間連絡が取れなかった、工場内は油まみれ、揺れで機械が動いてしまいレベルだしをし直した

震災後二週間は注文の連絡がなかった、未だに伝票の処理がうまくいかない

棚からエンドミルが落ちて全破損してしまった

震災の当日に帰宅する人々に会社で休憩場所、飲み物・トイレの提供をしている会社があった

等、詳しいことまでは書ききれませんが、十五名と参加者も多く活発な情報交換がおこなわれました。

各社各様に様々な良い影響や悪い影響を受けていることがわかりとても有意義でした。

震災による共通する問題点として、

材料の入手・ガソリンの確保・非常時の従業員対応(避難訓練)・非常時の連絡手法などがあげられます。YMクラブとしても有事の際の対策として、何かできることがないか考えていきたいと思えます。

また、YMネット情報交換会を実施していきま

すので、皆様も是非ご参加ください。宜しくお願い申し上げます。

わが国の人口構造の変化を見ると、二〇〇五年において一人の高齢者を三人で支えている社会構造になっており、少子高齢化が一層進行する二〇五五年には一人の高齢者を一・二人で支える状況になることが想定されています。

す。近年では、東南アジア諸国の実習生も増加しました。彼らは現時点において客観的に見ても所謂自国(後進国)への技術移転を目的として来日しているといってもよいでしょう。従って、中国と他の東南アジアの実習生とはその存在の内容が異なるようになってきたように思えます。しかし、国際経済の中で今後とも中国を抜きにしては語れないことは今や当たり前の事実です。

翻って考えると、中小企業のものづくり分野に於いて、この制度を導入する協同組合の目的は次の三点に要約されます。

- ①若い真面目な高度な技能を有する「技能労働者」が、日本の若者の少子化とものづくり離れの傾向により激減したためにこの制度を導入しました。
- ②大企業からの値下げ要求に対抗するためにある程度の技能を持った低賃金労働者が是非とも必要であったためにこの制度を導入しました。
- ③中小企業の経営者が、何らかの形で国際交流をしたいという思いを抱いていることのためにこの制度を導入しました。(本来の技術移転の目的に合致するもの)

外国人労働者問題について

(株) 昭和製作所
代表取締役

舟久保 利 明

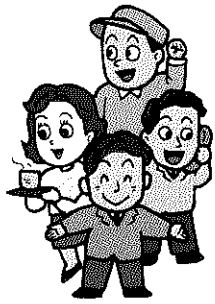
介するとともに、今後の外国人労働者問題について考えてみたいと思います。

外国人研修生受入制度の目的は後進国への技術移転と国際交流がその中心でしたが近年その内容が変質してきました。初期(一九九〇年代)に於いては中国人が殆どの対象でしたが、中国の経済発展は今や後進国とは言えないほど発展し、技術移転の内容は形骸化しています。そのことからこの制度に大田区が援助するのは無駄であるという考え方が出てきたのも無理ないことと思われまます。また、法律改正によって、実質的に研修生は、いわば準労働者と言っても差支えない実習生に名を変えることとなりました。研修制度を悪用する業者が激増したため

この制度の原点は、日本の外国人への鎖国政策にあります。主として欧州各国の抱える外国人労働者問題の解決策として、厚生労働省が案出した制度であると聞いています。しかし、外国人入国に際しては他の省庁との整合性がなく、ばらばらの対応が続いているのが残念なことです。将来的に、外国人に対する社会統合政策を根底にした移民省の創設が切望されます。特に、二〇年後(二〇三〇年前後)に五〇〇万人前後と予想される労働者不足に対し、外国人労働者の受入れが必然的になる事態が予想され、それまでのつなぎ政策としてのこの制度の援助を継続するしかないかの違いは、今後の大田区のものづくりの分野で大きな影響を与えるであろうと予想しています。

YMクラブと私

(株)マサオプレス 常務取締役
宮澤 淳



私はYMクラブに入会して6年がたちました。入会のきっかけになったのは高校時代の友人に誘われ毎年PIOで行われる「ザ・パーティー」に行ったのですが最初は疑問だらけでした。

なぜなら大田区の工場関係者が主催でパーティ?アマチュアバンドの生演奏?飲み放題?と工業とはかけはなれたイベントだったからです。その日はYMクラブの数名の方と名刺交換をさせていただき後日に入会案内書とYMクラブ規定を拝見させていただきました。その案内書によるとYMクラブとは経営及び技術向上を目指した講習会、講演会、研修会、見学会等を月に一回行い、各月に担当する月当番幹事を決めて年間の活動を全会員が直接運営に携われるシステムだと知りました。これはおもしろそうだと思います。入会して初めて参加したイベントが40周年の総会ということもあり大勢の会員の方にお会いすることができました。印象は思っていた以上に若い人が多かったことで同年代の人も多く誰とでも話しやすい雰囲気にすっかりはまってしまったのです。それからは極力YMクラブの月例会やイベントに参加するようにしていますが同じような境遇にいるすばらしい仲間達と仕事の話したりプライベートの話をしたりすることがとても勉強になります。今では「ザ・パーティー」は好きなイベントの一つになっていることは言うまでもありませんがこれからも積極的に情報交換や会員間の親睦を深めながらお互いに切磋琢磨していきたいと思えます。

ボウリング大会

(有)神崎鑄工所 専務取締役
神崎 浩一



5月28日土曜日にYMクラブでボウリング大会を開催しました。学生の頃、良くボウリングをしていたので、進んで幹事を担当させていただきました。今回の大会はレーン毎のチーム対抗戦と個人戦で勝

負しました。
大会は大変盛り上がり、私も久しぶりのボウリングでしたのでおもしろい楽しみました。
しかし、幹事という立場を忘れ、個人戦でトップを獲るという失態を演じ、参加者の方に迷惑をかけました。
大会終了後には、表彰式と懇親会を兼ねて中華料理店で食事をしながら歓談し、大変楽しい時間を過ごせたと思います。
このボウリング大会でご家族の方に少しでもYMクラブの活動にご理解を深めてもらう事ができたら幸いです。
ボウリングは子供から大人まで手軽にできるスポーツなので、これからもYMクラブでボウリング大会を続けていきたいと思えます。

スキューバダイビング

(株)旭製作所 代表取締役
丸山 昌輝



4年前、家族で沖縄県宮古島に行った時に体験ダイビングに挑戦しました。
ホテルに迎えの車が来てくれて乗り込んだところ、インストラクターが「今日はキャンセルが出て丸山さん1人だけなので船でやりま

しょう」と言われ。
「ちょっと、ちょっと待った一度も経験が無いのにいきなり船かよ!」
でも、完全貸切り状態でインストラクターとマンツーマンでレッスン、「よし、やってみよう!」と決めました。
そして、港へ向かい機材を積んで出航です。ダイビングポイントは観光スポットで有名な砂山ビーチ近くの七港湾沖。興味と不安が入り混じった中でポイントに到着すると、さっそく船上での講習。
マウスピースでの呼吸の仕方、マスクに水が入ったときの対処の仕方、水中での合図の仕方、耳抜きなどの教わり約20分後、ウエットスーツに着替え、ポンペを背負い梯子を使って水の中へ。
まずは、梯子につかまりながら呼吸の練習、徐々に梯子を降りて行き水中に入ると、自分の酸素を吸う音が異常に大きく響き、はく時のポコポココ...

急に、水中でマウスピースが外れたら如何し様、息が出来なくなったら如何し様、パニックになったら如何し様、如何し様がたくさん出てきて、さっきまでの不安が広がり「だめだ、やめよう」と想い水面に出てしまいました。
すると、船上で見ていたインストラクターが「呼吸の仕方OKです。もう少し練習しましょう。」おいおい「そうじゃないって。」
不安を抱きながら何回か練習をしていくとだんだん慣れてきて、如何し様が何処か行ってしまいました。
そして、インストラクターと一緒に海底に垂らした10mのロープを伝い、途中何回か耳抜きをしながら徐々に海底へ降りて行きました。
ここ七港湾沖は水深10m前後で以前は、オニヒトデの被害に逢い珊瑚の死骸だらけでしたが、いまでは白砂の海底には所々に新しい珊瑚の根が出来て、その周りには色とりどりの魚が群れています。
インストラクターが白い水中用サインボードに、魚の名前を書いて説明してくれました。
クマノミ、スズメダイ、チョウチョウウオ、ツノダシ やばい!「これは癖になる」
以後、宮古島(通り池)では、水深12mでローニアジの回遊、久米島(タケンチ)では水深14mでギンガメアジの群れをウォッチングできました。
でも、かみさんはシュノーケリングでアオウミガメをウォッチング「くやしい~!」
私のダイビングは、船からの経験しかなくあくまでも観光用です。基礎を教わっていないので毎回不安もあって、今年こそは、今年こそはとダイビングライセンスを取ろうと思っているのですが時間がなく取る機会に恵まれません。でも、今年こそはと思っています。
「今年こそは!」

うっとうしい梅雨空が明けて、灼熱の暑さがやってきました。会員の皆様にはお変わりなくお過ごしのこととお察しいたします。

さて、今年もまた恒例事業の納涼会が近づいてきました。今年は3月に東日本大震災が発生し、それに加えて福島原子力発電所の事故が重なり、未曾有の被害をもたらしたために、折角桜の花が開花したにも拘らず、花見も自粛ムードになり、日本全体のすべての経済活動が停滞する結果となっております。

まだまだ地震災害の復旧活動が進まない上に、原発の問題については予断を許さぬ状況が続いておりますが、暑さなんかには負けずこんな時こそ日本の底力を発揮することが重要ではないでしょうか。

そんな意味からも、この納涼会が少しでも皆様を元気付けることになればと、大いに楽しんでいただける内容に企画いたしましたので、何卒会員並びにご家族・従業員の皆様お誘い合せの上、多数ご参加いただきたくご案内いたします。



納涼会のご案内

(社)大森工場協会 共催

- 1. 日時 平成23年 8月 25日 (木) 午後 6時 30分 から
2. 会場 大田文化の森 5階大ホール
3. 参加費 3,500円
4. 申込み 平成23年 8月 19日 (金) までに、会費を添えてお申し込み下さい。
5. 入場券 受付にてお渡しします。お弁当と引き換えて下さい。

6. アトラクション

フォルクローレ演奏 「ロス アウキス」

フォルクローレとは、アンデス地方に古くから伝わる、独特な民族楽器を使って演奏する、中南米各国の民族音楽のことを言います。

「ロス アウキス」はその演奏グループで、AWKI (アウキ) とはインカの言葉で「山の精霊」を意味しています。1988年ペルーのクスコ市で結成され、そこに生きる人々の魂や文化を伝えるため、世界の各地において活動を続けています。

活動経歴

- 1988年 ペルーのクスコ市で結成
1991年 千葉県館山市に招聘され、日本各地において交流活動を開始
その後第1回東京都ヘブンアーティストに合格 NHK教育番組「ジュニアスペシャル四大文明第五章」に出演
2007年 国立科学博物館での「インカ・マヤ・アステカ展」で演奏
有名な楽曲には、花祭り、サリリ、コンドルは飛んで行く、コーヒーロンバなどがある。



イメージ・トレーニング

(有)五城溶接工業所 代表取締役 後藤 智之



私は最近、知り合いから聞いて、イメージトレーニングを一日30分くらい行う様にしてしています。

良いイメージを繰り返し行う事により、全脳を活性化し、ひらめき、直感力を鋭くさせ潜在能力を引き出すなど色々な効果があるそうです。

普段、仕事中でも無意識のうちにイメージを浮かべながら、次の仕事の段取りは...などと皆様も考えている事と思いますが、効率の良い方法を引き出す為に頭の中で何通りもの作業工程をイメージし、その中から、

適度な作業方法を選び仕事をされていると思います。その時に良いイメージが浮かばないと、仕事の時に効率が上がらないとか、色々な問題点が浮上してくると思います。

仕事だけに関わらず、趣味のスポーツ、釣り、数字パズルなど、遊びなどの場面でも楽しいイメージや勝ったイメージを想像して、挑むと良い結果が出たりして、次も頑張ろうなどと次のステップアップにも繋がると思います。良いイメージを浮かび上がらす為には、過去の成功イメージを鮮明に思い浮かべる事で、脳に「疑似体験」を与えると良いそうです。自然相手の釣りなどは、天候や海の状況に左右されイマイチな結果になってしまう事もしばしば有る私ですが、イメージは大漁ウキウキな気分毎回楽しんでおります。

これからも、たくさんの事を経験し色々なイメージを実践で実現できるように日々イメージ・トレーニングを欠かさず積極的に行っていこうと思います。

【編集後記】

平成二十三年三月十一日、日本国中を震撼させた信じ難い大惨事に見舞われた。後ほど命名された東日本大震災である。一万五千人を超える死者や行方不明者の状況を毎日のようにマスコミが報道し、テレビ画面に映る瓦礫の山は被災地のみならず、見る者すべてを呆然とさせる惨状であった。また被災地では家族を失い、家を失い、田畑や家畜までを失った多くの人々が、かつてない試練と苦しみとの闘いの中で、途方に暮れながらも互いに手を携え、未来へ踏み出そうとしている姿が世界の各地に報道された。世界の人々は災害の凄まじさに驚くとともに、このような過酷な状況でも暴動も略奪も起こらず、冷静に協力し合う日本人の姿に感動し、世界の多くから称賛のメールが送られた。しかしながら、その矢先に地震により被害を受けた福島原子力発電所から放射能が漏れるという事故が起きた。地震・津波のすべてが想定外という状況から安全神話が崩れ、原発の汚染は地上や海上のすべてのものを汚染して行った。水道水から基準値を超える放射性ヨウ素が出た東京では、瞬く間に店頭からペットボトルの水が消えた。数日のうちに非常用食品や乾電池、ガスパンペ、トイレトペーパー等、緊急避難用の品々がなくなり、買占めの状況が続いた。やがて水道水の汚染度が基準値を下回ったので、飲用しても直ちに健康への影響はないと政府や都は説明したが、幼児を抱える親にとっては気が休まるどころではなかった。すぐには影響がなくても幼児の人生は長い。のちのちの影響を考えると誰しもが安全な水を求め、関東各県においてもしばらく品薄の状況が続いた。